

10

THINGS YOU NEED TO KNOW ABOUT



VIRTUALIZATION

「2020年までに、企業の50%は、社内でデータ統合を進めるための実質的な選択肢の1つとして、何らかの形のデータ仮想化 (DV) を導入するものと見られます」
-Gartner社

データ仮想化とは何でしょうか、またなぜ注目すべきなのでしょう。知っておくべき10のこと:

5 セルフサービス型BIを実現

ビジネスユーザーは、DVにより、技術チームに常に頼らなくてもデータを活用できるようになります。

4 パフォーマンスを最大化

ネットワークレイテンシ (データの転送が始まるまでの遅延) が原因でパフォーマンスが低下することが往々にしてあります。その点、DVは、ソースに直接接続することで、実用的な洞察をリアルタイムで提供します。

3 従来のデータウェアハウジングを補完

DVは、従来のウェアハウジングツールと相互補完的に利用することもできます。

2 より迅速にデータを管理

従来の方法でデータを統合して結果を出すまでには何時間も何日も待たなければなりませんでした。DVでは結果がリアルタイムで提供されます。

1 従来の統合ツールを維持するよりも低コスト

データを何回も物理的に複製し、移動させ、保存するには高いコストがかかります。DVでは、仮想データレイヤーが作成されるので、複製やストレージの費用が発生せずに済みます。

6

セキュアなデータガバナンスを確保

DVは、社内のあらゆる種類の情報へのアクセスポイントを一元化することで、セキュリティ管理、データガバナンス、およびパフォーマンス監視をサポートします。

7

データ連携にとどまらない

DVは、10年前からあるデータ連携技術を進化させたものです。パフォーマンスの最適化だけでなく、セルフサービス型の検索やディスカバリーなどの高度な機能を使用できます。

8

高いROIを実現

一般的なデータ仮想化プロジェクトでは、導入から6か月以内で採算が取れます。企業は、データ仮想化により、統合にかかる時間を従来の方法よりも50〜80%短縮することができます。

9

従来の手法よりもアジャイル

DV技術では、プロトタイプ機能を使用できます。つまり、戦略を全社規模で導入する前にテストすることができます。

10

ビッグデータファブリックに適切なコンテキストを提供

DVにより実現されるビッグデータファブリックでは、データを統合し、そのデータを予測分析用に準備して、ユーザーがリアルタイムで使用できるようにします。